

第2回新桂沢ダムモニタリング部会の開催概要

【開催日】 令和5年9月20日（水）13:30～15:30

【開催場所】 アスティ45 16階1605会議室

【出席者】 岩崎委員、岡村委員、玉田委員、中井委員、○松井委員、眞山委員 計6名
（欠席：池田委員、大原委員、加納委員）
（○：部会長、敬称略、五十音順）

議題

（1）幾春別川総合開発事業の実施状況

- ・建設工事に伴う変更箇所については、外来種の侵入に着目し、対策の必要性も含めた検討をしていただきたい。

（2）モニタリング計画の概要

- ・主なご意見なし

（3）モニタリング調査結果

- ・エゾサンショウウオの保全対策を評価するにあたっては、移植先および生息地の周辺環境に注視しつつ、モニタリング終了後の水国調査結果も含めた長期的な視点での分析が必要である。
- ・湛水により冠水した植生が枯死・衰退するなど、植生環境が変化することで新しいハビタットが生まれ、昆虫類の確認種も変わる可能性があるため、今後の調査においては留意したほうがよい。また、昆虫類の確認種も変わる可能性があるため、今後の調査においては留意したほうがよい。また、景観の観点からも検討を行っていただきたい。
- ・化石に関しては、引き続き事業所と連携して調査・情報共有を図っていく。
- ・現在の貯水池内水質（特にSS）においても、貯水池の上下層で違いがみられる。再開発後においても注視していくことが重要である。
- ・試験湛水後は下流河川の魚類の生息環境は変化することが想定されるため、特にダム直下の魚類相変化には注視すること。
- ・今後、貯水池が大きくなることで、透明度が高くなり藻類の活性が高まる可能性がある。これに伴い、臭気の発生等も考えられるため、引き続き注視していただきたい。
- ・ダム周辺環境を評価するにあたっては、あらかじめ長期的なビジョンやあるべき姿等を設定した上で、検討していくことが重要である。
- ・「景観形成ハンドブック」に新しい視点場や人の移動も考慮したシークエンス景観等の情報を充実させながら、その内容が引き継がれることが重要である。

（4）次年度以降のモニタリング調査計画（案）

- ・主なご意見なし



開催状況